

議 長 受付番号第6号、齋藤永君の一般質問を許します。登壇願います。
10番 齋 藤 一般質問させていただきます。受付番号第6号、質問議員10番 齋藤永。件名、町民の健康と未病いやしの里としての取り組みは。

要旨、町民文化センターにスポーツ環境を整備する考えが示されました。老若男女がスポーツに取り組み、健康を維持していくのは大変よいことだと思います。そこで、次のことをお尋ねいたします。

(1) 以前、私が御質問いたしましたサッカーやフットサル専用コート等、検討するとのお考えでした。今や全世界での競技人口は、200を超える国で2億5000万人を超える選手たちがプレーをしています。F I F Aワールドカップのテレビ視聴者数は、全世界で延べ300億人を超えており、世界で最も人気のあるスポーツです。その後の状況は？

(2) 未病いやしの里として県西地区が中心になっておりますが、衰退した地域の産業の活性化としての取り組みへのお考えは。

以上、よろしく願います。

教 育 長 それでは、齋藤議員の御質問にお答えします。1点目については、私から答弁させていただき、2点目については町長より答弁させていただきます。

まず1点目の御質問です。以前、齋藤議員から御質問のいただいております、みやまグラウンドをサッカー場やフットサルコートとして活用できないかというものでした。その後の調査・研究状況では、まずサッカー場としての広さの確保の件ですが、サッカー場として最大縦90メートル、横54メートルを確保できる広さが確保でき、またフットサルコートとしては、サッカー場と併用する形で最大4面のコートも確保できることがわかりました。この状況で施設の有効活用を考えつつ、地域の活性化、費用対効果などを考慮した中で施設整備の専門家に相談をし、実現可能性について研究をいたしました。

先ほど申しましたように、広さ的には可能ですが、かかる建設費には約1億円の費用が発生し、その財源確保にもサッカーくじのt o t oの助成を受けることで、町負担分として約半分の5,000万という額が示されました。

この時点で、専門家からは建設費の問題と、それ以外に指摘を受けたことがあります。1つ目は、駐車場の問題。2つ目は、施設を運営する上で、50人か

ら100人が収容できる宿泊施設の確保。3つ目が、1面でのサッカー場では、顧客を誘致するノウハウを持つ組織が施設運営を手がけることとなると、採算ベースでは大変厳しいということでありました。この指摘事項に対して、地域の民宿だけでなく、管理センターの大規模なリフォーム等が必要となり、さらに駐車場を確保するための用地確保など、課題が出てまいりました。

これらの課題を専門家、事務局で話し合った結果、都市圏からのアクセスを考慮した中で、地域のさらなる発展を考慮された提案ではありますが、グラウンド施設整備以外に大規模な改修等が必要であるという結果がわかりました。

さらに、グラウンドの敷地のほとんどが借地であること、及び地域の活性化という面では、施設運営側のみ利益になる可能性が高く、現状の地域産業の発展で雇用創出とか、観光客の誘致、地元製品の販売など、地元メリットがあるものの、投資効果が低いという結論に達しました。寄地域の活性化という観点から、現在、Yadoriki Healing Village構想での寄地域活性化事業がドッグランを中心に進められておりますので、この事業の展開を見ながら、寄りやまグラウンドの利活用について地主の皆様への御理解、御協力を賜ることを前提に状況を見きわめてまいります。

そのために、単に整備に係る助成制度を取り入れるのではなく、課題となっている附帯事業の助成制度も研究してまいります。

2点目については、町長より答弁いたします。

町長 続きまして、2点目の県西地域で進められている未病の関係につきまして、お答えをさせていただきます。まず、未病いやしの里でございますが、御存じのように、神奈川県では平成26年3月に策定いたしました県西地域活性化プロジェクトに基づき、県西地域を未病の戦略的エリアとしてアピールしていくために、未病に関する総合的な普及啓発を行うとともに、地域の活性化につながるにぎわいを創出するための核となる拠点施設として、民間事業者が主体となって整備する商業施設を未病いやしの里センター（仮称）でございます、に位置づけることで、県西地域活性化プロジェクトの計画期間である平成32年度までのできる限り早期の設置を目指すということになっております。現在は、大井町山田のブルックス大井事業所として、今後、株式会社ブルックスホールデ

イングス、大井町、県が連携して、設置に向け具体的な計画の策定に着手をしています。

また、今年3月18日土曜日には、「ME-BYOフェスタ2017春」と題しまして、未病いやしの里センター設置予定地で、神奈川県などが主催するスポーツを中心に楽しく健康づくりができる催しが開催される予定です。

議員の御質問の地域産業の活性化との取り組みということでございますが、県の健康寿命社会実現に向けた未病を改善する取り組みとしまして、平成28年度におきましては、商店街の未病を改善する取り組み支援といたしまして、商店街が未病を改善する考え方の普及のために、コミュニティカフェ等を新たに設置する際、空き店舗の改造費に対する補助といたしまして、1,220万円が計上されております。この補助金は、商店街団体や商工会などを対象に、対象事業の2分の1を補助するもので、平成28年度におきましては5団体が補助を受けております。県の平成29年度予算におきましても、4,000万円が計上されております。

同様に、当町でも松田町空き店舗対策補助金交付要綱により、空き店舗を活用して事業を行う方に対し、予算の範囲でございますが、月額賃借料の3分の2以内で5万円を上限に半年分の補助金を交付することができます。平成28年度に予算計上し、2件、39万1,000円が決定しているところであり、29年度予算につきましても、予算を計上しております。

地域の産業だけでなく、町の活性化のためにも空き店舗を利用いただき、町がよりにぎわってくれればと期待しているところでございます。

また、空き店舗対策以外といたしましても、商業活性化といたしまして、29年度予算には、商工振興商品券、いわゆるプレミアム商品券を継続、またちよい呑みフェスティバルなどの商工振興支援事業、松田ブランド事業、まつだ桜まつりやきらきらフェスタなどのフェスティバル事業等々を計上しております。そのほか、町内へ流入する交流人口増加策としまして、女性が輝き活躍するコンパクトシティ創生事業、ローカルブランディングとコラボいたしました国際交流事業や観光事業強化、DMOの推進など、日本人だけでなくインバウンド対策にも取り組んでいるところでございます。また、平成28年度補正予算で計上

しました文化センターをスポーツ施設としてリノベーションします複合拠点施設整備事業にも、交流人口増加策として有効な手段だとも考えております。

また、人口増加策といたしまして、PFI事業として取り組んでおります町営住宅整備事業など、定住化促進事業やふるさと納税の返礼品にミカンやお茶など地場産品の返礼品の強化を進めることで、地元の雇用確保になり、定住化につなげていきたいというふうにも考えております。

そして、今後は昨年12月に包括協定を締結いたしましたDHCさんとの健康促進事業や、健康食品会社タニタさんとの連携も模索中であり、今後の健康志向強化に取り組むなど、町が進めている独自の事業と県の未病の取り組みが連携・連動することで、地域産業の活性化につながるよう取り組んでまいり所存でございます。以上でございます。

10番 齋藤 お答えありがとうございました。まず、コートはできるけど予算の問題というところで、たしか当時、あのときあと2,000万か3,000万出せばできるというふうな、totoの補助金を使うってことで、あったとは思うんですけども、今、教育長の話ですと5,000万かかってしまうという問題ですね。これは多分、サッカーコートをつくるのに5,000万かかるっていうことですか。例えば、フットサルのほうならもう少し小さくできるじゃないですか。その辺のほうだけの検討とかはされたことはあるのでしょうか。

教 育 課 長 お答えいたします。先ほど答弁させていただきました1億円、それで一般財としては5,000万円という答えに対しましては、先ほど答弁いたしましたように、1面のサッカー場とそこに併用する形で4面のフットサルコートを設置した場合のかかる経費でございます。ですので、フットサルコートだけでということでは見積もり等はいただいてませんので、全体としてそれだけかかるということでございます。

10番 齋藤 わかりました。今、先ほど私が申したように、サッカーやフットサルに対する国民の熱の入れ方っていうことは御承知だと思います。日本の国の中で一番Jリーグのサッカーチームを持っているのは神奈川県なんです。神奈川県には、今6つのJリーグのチームがございます。一番多いんですけども、日本の中でJリーグまたはJFLのサッカーチームがないところが4県あるんですよ。

JFLだけあって、Jリーグのチームがない県が5県ある。そんなにたくさんないところもあるのに、神奈川県って6つも持ってるほど、サッカー熱ってのはすごく高いということがまず前提にございます。

若者のエネルギーをよくテレビで見られると思いますけど、ちょっと道路では迷惑なのかもしれませんけれども、青いユニホームを着た若者が町にあふれてエネルギーを物すごく出している。ああいうシーンって、海外では戦争のときの何かイメージの部分のところしか、若者のエネルギーを出してるところがなくて、日本っていうのはそういう戦争から離れてますので、若者のエネルギーってああいうとこでしか見ることがないのかなとは思いますが。そういったその若い世代を取り込んでいかない限りは、この町が今やろうとしてる定住化やね、そういったものの、何か魅力の部分をごどこで出していくのかという。

また、2020年にはオリンピックが開催されるということで、スポーツへの関心度っていうのがかなり高くなってくるとは思います。そういった中で、例えばですけども、今はサッカーの話しかしてないんですけども、そのスポーツに対するこの町の取り組みですか、そういったことに力を入れることによって、その若い世代を引っ張ってこれるようなことができるんじゃないのかと。例えば、以前ですね、オリンピックをやったときに、どこでしたっけね、大分県の中津江村でしたっけ。これ、カメルーンの代表選手入れて、テレビでかなり話題になりましたよね。そういったことで、まちおこしをしていく、そういった流れは何かできないものかなとは思いますが。サッカー以外でも、そういったスポーツで健康維持していく、町民のためにもスポーツに力を入れることができるんじゃないかと思うんですけども、その辺はいかがなものでしょうか。

教 育 長 今、齋藤議員のおっしゃったように、サッカー熱含めて、スポーツに対する若い人たちの熱が高いっていうのは承知をしておりますし、町民の親水グラウンドを見ても非常に利用率の高いところを見ても、そんなことが言えるかなというふうに思っています。これも、いろいろな財政面やその他条件がそろえば、そうしたところもぜひ、こうした若い人に活用してもらいたいという気持ちは

あります。しかし、先ほど申し上げたような事情もございます。そうした点も、ぜひ御理解をいただきたいと思っております。

10番 齋 藤 どうしてもお金かかってしまう部分がありますよね。何かそういったものが助成とか、補助金メニューとかにはないんですかね。政策推進課長、そういうことは調べたことありますか、何か。

政策推進課長 すいません、個々のスポーツについてはちょっと調べたことはないんですけども、今回御存じのように町民文化センター、ボルダリングと、これはオリンピックの追加種目として決まっております。また先日、ジャパンカップで14歳の伊藤ふたばさんですか、こういう方が優勝してございます。先ほど、カメルーンの話ありましたように、こういう方の練習場として使っていただければ、また交流人口の増加というものにも貢献できるんじゃないかというふうに思っております。

10番 齋 藤 そういったことで、交流人口で使っていただければって、そういう何か仕掛け、もうしてるんですか。もう3年後じゃないですか、2020年って。

政策推進課長 まだ課の中でたたいているだけでございます。まず施設ができ上がって、そういうものを誘致できたらいいなというふうには、課の中では話をしてございます。

10番 齋 藤 平成27年にスポーツ庁ができましたよね。この国がやっとスポーツに力を入れ始めてきたのかなと感じるところです。若い世代をどうエネルギーを使っていくのか。昔からある柔道、そういう武術はね、この国は結構強かったりはしますし、陸上も最近決勝までいけるようになったりとか、水泳とか、強いスポーツもかなりあると思います。この前もスケートでしたっけ、女性の方が活躍されてるシーンをテレビで拝聴しましたけれども、スポーツでやるだけですからごくクローズアップされてくる。そこを使わない手はないと思うんですよ。この町にできること、町長がいつも言っているおもてなし、各個人、一人一人ができることをやることがおもてなしなのかなって思います。この町ができること、スポーツに対する接し方、その辺の取り組み方によってかなり違って来るんじゃないかなと感じております。

そういった取り組み方を、たしか岡山県でしたっけ、岡山県が余りスポーツが盛んでなかったんですよ。岡山県では、女子バレーのVリーグを持ってきたり、Jリーグもなかったんでサッカーチームをつくったり、女子サッカーのチ

ームができたりもして、岡山県はこの10年間でスポーツの県に変わってます。そのときに、その文章っていうか、言葉があったんですけれども、自治体を持つ影響力、潜在的な能力はどこの都道府県でも本来持ち合わせているはずだろう。だれがイニシアチブをとるか、そして、県民がどれだけ関心と熱意を持つかによって、10年後の姿が全く違ったものになるという言葉を残してます。今、この町が、町長がいろいろおもてなし、また外国の方、インバウンドに対応するようなこと、先ほど言ってるような海外のチームをここで招いてやったりすることが、また地域の子供たちと触れる場面も出てきます。そういったことで、スポーツの国際化も目指すことができるような子供たちを生み出すこともできます。できるだけ、何か糸口を見つけて、そういう形でスポーツに力を入れていただきたいと思いますけれども、この件については、町長、どのようなお考えをお持ちでしょうか。

町長 御質問ありがとうございます。岡山県、すごいですよね。本当にいいと思います。よく、首長さんたちとよく話をするのはですね、過去に神奈川で国体か何かあったんでしょうかね、そのときはすごく神奈川県でも予算をつけて一生懸命やられたという話をよく聞きますけども、それが終わった途端、ぴたっと神奈川県の方でも終わったということからすると、各県でいろんな集中して取り組むやり方っていうのは、やっぱり首長さんがっていうか、知事がかわるといろいろ変わっていくもんなんだなっていうふうに思って、今回、2020年のオリンピックでやりますよなんて言う割りには、その後どうすんのっていうのが全くないっていうふうなことは、我々5町の首長さん、1市5町とか、2市8町でよく話をする事なんですけどもね。ですから、この先につながるものがどういうものなのかって非常に大切だなっていうことが第一前提だと思います。

そんな中、齋藤議員から御提案いただいているように、海外のチームだとか、スポーツの国際化っていうのは、非常によろしいかと思えます。スポーツは本当に言葉が要らなくて、本当に子供たちがコミュニケーションとったりだとかっていうこともありますし、そういった面では今後必要だというふうに思います。ただそこで1点、考えないといけないのは、その施設が必要かどうかです

よね。要は、その子供たちの交流を目指していくのであれば、ただ、その施設をつくるということはそれに対する対費用効果を求められてしまうというのは当たり前な話だと思いますし、ただスポーツだから、福祉だから、文化だから、費用効果を求めない。そういう時代ではもう随分なくなってきたのかなっていうことがありますから、先ほど来、教育長と教育課長のほうで話があったような予算の関係上も含めながらですね、我々の町としてできることから始めていかなきゃいけないですし、海外のチームも当然呼んでくるっていうことであると、その受け入れ体制もしっかりしなきゃいけない。だから、今はハード整備というよりもソフト事業のほうを先にやっているとこもありますけれども、ただ、齋藤議員言われたように、あと3年というような一つ機運がありますからね。そういった面でいくと、急ピッチにやりながらやっていく。そのために、一つの先行事例としてというか、先行投資としてALTを1人増員するというような予算を今、組ませてもらってますので、2人体制で英語の指導助手になりますから、今後そういった方々を町民との交流だとか、地域の方々の英会話教室だとか、そういったものをやりながら海外の人たちが来てもしっかりできるようなソフトづくり。その間に、総合的にですね、教育委員会さんを中心としたスポーツ、また運動について考えることにもなろうかと思うんですけども、ただ、子育て健康課のほうもね、一緒にやっぱり考えなきゃいけないこともありますから、その辺が次の多分、未病の関係の質問に出てくるんじゃないかならうかと思っておりますので、私たちの考え方としては、そういったハードとソフトと両面で物事を考えて進めていきたいというふうに思っております。以上です。

10番 齋藤 ありがとうございます。お金がかかることはなかなか難しいんですけども、ただ1つ、寄の民宿もそんなに人が来ずに、いかに人を来させるかっていうのは、例えば大学と連携してここでサッカーできますよ、バスケットできますよとかって話、そういう話もしたことあるんですかね。そういうことをやることによって、合宿をしていただくと、それなりのお金も落ちていきます。そういったことで、スポーツに力を入れていただくことが地域の産業の活性化にもつながっていくものだと思いますので、ぜひともよろしくお願ひしたいと思ひます。

それとですね、2番目の未病の件はですね、まだなかなか進んでない部分もあって、何をやるんだっていう部分がよく理解もされてないようには思ってるんですけども、第一生命跡地のブルックスのところには、いろんなにぎわいゾーンだとか、里山ゾーンだとか、いろんなゾーン別に分けてつくられているとは思いますが。この中で、やっぱり基本的なコンセプトの中に、にぎわいを生む、未病を改善する、産業を活性化するという3つ載ってると思います。それで、ここの町は交通の結節点でありますし、第一生命のところにはセンターだと思うんで、あそこで情報を得る場所だけだと思うんですよ。この町に一度来て、あそこで情報を得て、またこの町でそういった未病のする何かがあれば、ここにまた人が集まってくるし、そういったその、正直今、商店街が閉まり切ってしまうてきて活力もなく、今は桜まつりで多少は来てますけれども、ほんの1カ月ですよ。観光立町を目指すと言いながら、1カ月しか観光の時期がなく、夏山に登られる方も何名かおられると思います。ただ、町の中をにぎわいを出すっていうのは、本当に桜まつりしかないのかと。寄地区は、ロウバイでことしは2万人を超えたというような情報も入っておりますし、どんどんいろんな花で人が来るというのはわかっておりますけど、やっぱり年がら年中、進まない、例えばお土産品だとか食べ物だとか、そういった観光に対する産業が育ちませんよね。たった1カ月のためだけだったら1カ月でおしまいになってしまいますので、そういった産業を育てていくには長くいけるようなものをつくっていかなくちゃいけない。ここの未病いやしの里センターができるに当たって、この町として商工業と何かできないのかと。そういった思いで、このことをちょっとお聞きしたんですけども。もっと今の商店がなくなってしまうような状況の中で、新たに何かをつくっていききたいとか、こういう形で、先ほどコミュニティの場所がどうのこうのっていうお話もあったと思うんですけど、その辺の話がちょっとよくわかんないので、そこだけもう1回ちょっといただけますでしょうか。

町 長 私がちょっと受けた内容での御回答になっちゃうので、もしずれてたら教えてください。今現在、県が進めていただいている、というか進められている未病の関係ですよ。それで、まずもってこの未病のいやしの里センターって

うことで、大井町ブルックスさんのところを指名される前に、各この2市8町全体で道の駅だとか、町の駅だとか、いろんなサイクルの駅だとかっていうふうな格好で、県のほうも予算がないことなんでしょうね。とにかく予算をかけずに、今あるやつを〇〇の駅というふうにしなから、今後お客さんをそういった点を線で結ぶようなツアーとか、ガイドをしていこうというふうな展開をされているということで私は認識をしております。

そんな中、あくまでもそういった中心の場所というところで、齋藤議員が今おっしゃられたように、いろんなエリアがあって、アクティビティー的な遊びの場所もあったりしながら運動する、健康寿命を延ばすというようなことと、あくまでもそこを中心として、そんなもともとあったこの地域のよさのところが〇〇の駅というふうになったりとかしてしますので、そういった格好の中で今後は展開されるんだらうなというふうには、こっちのほうではイメージはしてません。

そんな中、交通の結節点である松田の駅周辺から、当然ながらバスなり、何なりということで、未病のセンターに行くということについては、先だって大井の間宮町長と一緒に小田急電鉄のほうですね、山木社長と星野専務とお会いしたときにお話をしてきましたけども、こういう形で今後お客さんがふえてくるといったことになると、未病の関係の特別の列車を出していただくよとか、そういったツアー、要はヘルスケアツアーですよ。そういった形でやったりだとかっていうのはいかがでしょうかと言いながら、今後、富士急さんとかタクシー業者さん等々もですね、連携をしながらやっていかなきゃいけないというのが、そろそろ少しずつ構想として立ち上がってき始めてるところでございますので、県のほうもことしの予算を使って、車で来た人の、私この間質問したんですけども、車で来た人のまだ交通案内すらまだできてない。というようなことでは、なかなかいつになったらそこが稼働していくのか、要はお金を生む場所になるのかといった部分については質問したところでありますので、県の担当者の方々も、それは一つの案ですのでちょっと早急にいろいろ検討したいと言ってはいただいたんですけどもね。とにかく連携していくことによって地域経済ができてくると思います。

また、今回の桜まつりのときに、試験的というようなことでもありますけども、地域の方々、また声をかけていただいて、空き家、空き店舗が約10店舗でよかったんですけど、8店舗。8店舗のところにお店が入っていただいた経緯もあります。それを次というか、来年度も今度はちょっと町が少し負担をするわけなんですけどもね、そういった方々を受け入れていながら、試しで店舗に入っていただいて、それで売り上げ上がった、何上がったっていうことになる、そのまま店を自主的に借りていただくというような取り組みもするということがありますので、当然そこに来てくれるお客さんを誘客をするということは、我々も一緒にやっていかなきゃいけないというふうに今取り組んでるというふうにいただければ、未病だからどうか、ほかの祭りのときしか来ないとかっていうことではなく、地域の活性化が図れるんじゃないかなというふうに思っております。以上です。

政策推進課長 すいません、先ほどコミュニティという町長の答弁ありましたけども、県の未病の関連の予算の中にですね、やはり町と同じように、空き店舗を利用してコミュニティカフェ等にぎわいの拠点を整備し、未病改善の取り組みを行う場合、2分の1の補助があると、そういう補助金があるというふうにちょっと答弁の中で書かせていただきました。

それで、28年度におきましてやはり5件採択されてます。その内容等もホームページで紹介されてますので、もし、ペーパーもありますけども、そういうことで答弁をさせていただきました。

10番 齋藤 わかりました。町長の言われること、よくわかるんですけど、ただ一つですね、せっかく松田に来て、大井町にお客さんらしきものを送り込むこともないんじゃないかと。この町で何かを見て楽しんで、お金を落とすしてもらおうようなことをどんどんつくっていきたいなと思います。そのきっかけを何かつくってあげることが、今は商店街の空き店舗、今回は桜まつり用で多分来ただけなんじゃないかなとは思いますが、先ほど言ったようにちょっと終わってしまったらいなくなってしまうことばかりだと思います。空き家対策、空き店舗対策、これにも役に立ちますし、商店街、地域の活性化にもなりますし、そのコミュニティ等をやることにより老人たちが集まる場所がふえてくると、や

やっぱり片方が亡くなってしまうと、1人になると亡くなる率が高いというようなことも聞いてますし、人はやっぱり話をしないとだめだってことも聞いております。そういった話ができるような部分、この松田町でどんどんつくってあげて、例えば老人の人が第一生命まで行くのに、やっぱり車使わなきゃ行けないじゃないですか。だから、あそこはやっぱりセンターでの機能でしかないと思うんですよ。やっぱり地域の老人がふだん買い物できる、動ける範囲内での動きの中で、自分たちが未病を治していくような心構えを持ってること、この地域の老人、元気だなど。ああ、未病の里だからだなどって、全国から人が集まるような、模範となるような地域になるべき、そのチャンスが今ここに来てると思います。それがまたその商工業にも結びつくこともできますし、その空き家を使っていただくことで防犯対策にもなります。いろんなことに関連してきます。みんなが健康になれば、高騰している医療費の削減にもなることだと思います。今、抱えてる行政のたくさんの課題を幾つか、それをやることによって解決できる策が一つあるのかなとは思っています。それを今、松田町として、今後どういうふうにしていくのかという部分を、たくさんメニューをつくっていただきたいと思うんですけれども、それでよそからいろんな商人なり、老人が一日過ごせるようなところをつくってあげたりすることが、この地域の役割としていいのかなとは思っているんですけれども、その辺はいかがなものでしょうか。

町

長 御質問ありがとうございます。まさに、おっしゃられるとおりでと思います。さすがにあそこに御高齢の方々が行くっていうのは大変なことになると思いますので、まだ今そういった、とにかく地域の活性化という意味合いで考えると、やはり稼ぐ場所がないというようなこともありますし、稼ぐために知恵を出し合うといった観点もあります。

そんな中、御存じだと思うんですけども、女性が活躍するというようなコンパクトシティ計画の中で、今いろんな女性の方々に集まっていて、いろいろ議論をしていただいています。私がちょっと一つ考えられるのは、その中の人たちが駅周辺でですね、今どっちかという保健センターが比較的遠いので、未病のサテライトセンターにはなってますけども、ちょっと若干遠いので、駅

周辺の空き店舗で健康的な食品やものを食べれたりだとかですね、先ほど言うコミュニティカフェみたいな感じですよ。そういったことを今後展開できればというふうな構想っていうか、イメージ的なものですけどもね、そんなところを先ほどちょっと答弁させていただきましたDHCさん、またはというか一緒にタニタさんからもお声をかけてもらって、この間もこちらに来ていただいてですね、一緒にやっ払いこうっていう話もありました。ただ、それはまだ1つ、2つの業者さんですから、今後議員の方々からですね、さまざまなお付き合いもあられるでしょうから、そういったところからこういった業者もいるんだけど一緒にどうだっ払いこととか御提案いただければ、新しいスタイルがですね、松田町からそういったスタイルができて、またアンド女性が活躍するっていうことは女性の雇用が生まれて、そこで子育てをする方々の少しでも役に立てれば非常にいいなっ払いというふうな地域づくりで考えてますので、未病ということだけにこだわらずですね、そういった可能性を模索しながら進めてまいりたいというふうに思ってます。以上です。

10番 齋藤 時間もなっ払いですので、最後にですね、老人の方が長生きをする、ただ長生きするだけなっ払い、福寿社会をつくっ払いけるような地域として、この松田はいいんだよっ払いというふうな発信ができれば、人口増もできるのかなっ払いと思います。

それとあと、今、町長言われたような女性が活躍できる場ですか。まず高学歴の女性がここで働こうと思っ払いてもどこで働くんですかっ払いというふうな地域になっ払いってます。そういったものが対応できるようにやることが、女性がどんどん流入してきて、お子さんも産んでいただきながら人口もふえ、住宅もふえてくると。そして、その結果が活性化してくるといっ払いことにつながってくると思っ払いますので、今後、その辺お力を入れていただければと思っ払いますので、よろしくおっ払いしいして終わりたいと思っ払います。ありがとうございました。

議 長 以上で、受付番号第6号、齋藤永君の一般質問を終わります。